

しまね学校図書館活用コンクール 応募票

学 校 名	八束郡東出雲町立揖屋小学校
学 校 長 名	加 納 敏 視 印
記載責任者名	
連絡先電話番号	(0852) 52 -2007

() 読書活動	1 取組の概要					
	2 読書活動の資料・作品・写真等					
		活動等の名称	添付資料・作品等	添付数	活動中の写真の有無	
	1				有 ・ 無	
	2				有 ・ 無	
	3				有 ・ 無	
(○) 学校図書館 を活用した 授業実践	1 取組の概要					
	2 学校図書館活用教育年間計画 ※どちらかに○をつけてください。 有 ・ 無					
	3 学校図書館を活用した授業実践の資料					
		単元名・資料名	学年	教科	添付資料等	添付数
	1	東出雲町のガイド マップ作り	3	総合的な学 習の時間	中間発表 学習指導案 発表資料 2年生児童感想文	
	2	本となかよしにな ろう	特別 支援	国語	学習指導案 児童の作ったおはなし例	
	3	4つの音を使ってイメ ージに合った音楽を作 ろう	6	音楽	学習指導案 ワークシート 振り返りシート	
	4	どうぶつの赤ちゃん	1	国語	資料リスト クイズ作りカード	

※ 読書活動または学校図書館を活用した授業実践のうち、いずれか一つに○をつけてください。

しまね学校図書館活用コンクール

取組の概要

学校名 島根県八束郡東出雲町立揖屋小学校

1 応募部門 ※ 応募する部門に○を付けてください。

() 読書活動部門

(○) 学校図書館を活用した授業部門

2 実践のねらい

学校図書館を活用することで、人との関わりを大切にしながら確かな学びへと高めよう児童を育成する

教科学習の中に図書館を使った授業を計画的に取り入れ、情報活用能力を育成するとともに、効果的に教科のねらいに迫る。図書館を活用することで子どもたちの思考力、想像力を伸ばし、学んだことを自分の言葉でまとめ、わかりやすく「伝え合う力（技術・態度・思考）」を身に付けさせる。

3 実践の概要（学校図書館とのかかわりがわかるように記すこと。）

【学校全体での取り組み】

① 体系的・計画的な取り組み

校内研究として、情報活用能力育成にふさわしい国語科を中心に重点単元を決め、図書館を活用した授業に全学年で取り組んだ。図書館を活用することは、子ども達の主体的な学習態度を育成でき、学習したことが、確かな学びへとつながると考えた。今年度は、国語以外の教科でも図書館を活用して、成果を挙げている。また、本校児童は、「伝え合う力」が弱いという前年度の課題をもとに、今年度は、「伝え合う」ということにも着眼し、授業実践をしてきた。さらに、教科学習に体系的に取り組むために「東出雲町 情報・メディアを活用する学び方の指導体系表」をもとに、本校の学習指導計画を作成し実施した。体系的に取り組むことで指導する教員誰もが、各学年の指導の重点を把握している。

② 情報活用能力の育成のための手立て

図書館活用の授業をするにあたり、簡単な活動案を作り、この授業での図書館教育のねらい(読書で育てたい力・情報リテラシーに関することなど)を明確にした。また図書館の支援という項目をたて、図書館担当者と、担任の役割分担を明確にした。活動案があることで担任・司書教諭・学校司書の連携がとりやすかった。また、学習後、子どもの学習の様子やふりかえりを記録することで、次年度にも学習に役立てることができる。

③ 思考力・想像力を伸ばすための手立て

授業に必要な図書資料を学校司書が分析リスト化したものをつくり、個へ応じたきめ細かな指導ができる。その学習に関する図書資料を集めるだけでなく、内容を把握、分析し、それぞれの子どもの能力、ニーズにあった資料提供を行った。また、授業で取り組むということで、子ども一人が、ひとつ以上の資料が手にできるようにと図書資料を数多く準備した。本だけに限らず、新聞の切り抜き、パンフレット、雑誌、ポスターなどの情報も利用した。また、必要に応じて、取材し写真を撮り、ゲストティーチャー・学習ボランティアにも来ていただくように準備した。

④ 伝え合う力を身につけさせるための手立て

話すこと、聞くことを中心に学年ごとにめざす子ども像を考えた。国語科の授業を基本として、音読、スピーチタイム、話形の提示、声の大きさなど授業の中で取り組んだ。また、学校生活全般においても基本的な話し方、聞き方、言葉遣い、相手意識をもった話し方に留意させ、集会活動、掃除の反省会の場合でも全職員による共通した指導をめざした。

【3年生 総合的な学習の時間「東出雲町のガイドマップづくり」を通して】

1、主体的・意欲的に調べるための支援

地域の情報は、一般的に大人向けのものが多く、子ども向けの資料は、平成8年に作られた社会科副読本、昔話の絵本などに限られているので、3年生が学習に使えるように工夫した。

- ① 情報の読み取り指導 「東出雲町史」などは、必要な部分を拡大コピーし、ふりがなをつけ、解説しながら一緒に読み取った。
- ② 付せんの利用 支援センターの協力により、寺・祭り・自然など項目ごとに色分けをした付せんをつけて資料を提供した。
- ③ 情報のファイルづくり 東出雲町広報紙 パンフレット・リーフレット類 ポスター 地図など必要なものは、複数準備した。
- ④ 学習支援ボランティアの活用 地域の方をお願いして、町史など漢字が多いものを一緒に読んでもらった。その際、由来や場所などくわしい話を直接聞くことができた。
- ⑤ 取材、写真撮影の協力 石碑、看板、地図など学習中に必要となったものを取材し、写真を提供した。
- ⑥ 地域のゲストティーチャーと連絡をとり、「ホーランエンヤ」のくわしい話をみんなで聞いた。

2、伝え合う力を身につけさせるための支援

(1) 相手意識をたせて情報を構成させる

調べたことを多様な表現方法でまとめることを考えさせた。ほかけ祭り新聞、ペープサートによる劇化、郷土に伝わる昔話の紙芝居、三菱農機についてのクイズなど、担任、司書教諭、学校司書が子どもを分担して指導した。中間発表で相互評価をし、2年生に東出雲を好きになってもらいたいという相手意識と目的をはっきりさせて、より正確な情報、簡単な説明、地図の利用など2年生に効果的に伝えることを工夫させた。

(2) 情報を発信、交流させる

情報機器（実物投影機・プロジェクター・スクリーン）の扱いを指導し、慣れさせた。機器は2年生の視覚に訴え発信のために効果的だった。おちらと村で作ったこまの実演、渋染めで作った自分たちの作品の提示など実物の提示も工夫した。図書館担当者と担任は、分担して4会場に別れ2年生に自分たちが調べたことを発表させた。生活科で町探検を経験した2年生は、自分たちの学習経験もふまえてしっかりと聞いて、的をえた質問や、感想を発表した。また、学年公開日には、保護者にも成果を発表してよく調べたとほめてもらった。

4 実践の成果

- ① 図書館を使った学習を計画的、体系的に取り組むことで、その学年に応じた情報活用能力が身につきており、教科のねらいを達成するのに効果的であった。確かな学力を積み重ねることができている。
- ② 図書館を使った学習に取り組むことは、わからない言葉を国語辞典で調べる、複数の資料を比較してみるなど確かな学習の態度が身につき、子どもの主体的、意欲的な学びにつながった。
- ③ 相手意識をもたせることは、わかりやすく伝える技術・態度・思考を育てる大きな力となった。図書館が個別の支援することで調べが確実なものとなり、自信を持って伝えることができ、聞く方も自分の調べと比較して聞いて考えることが身についた。